

公立豊岡病院救急救命センターに

「ドクターカー」が配備されました



新しく導入されたドクターカー

は、普通乗用車に赤色灯やサイレンを装備し緊急走行を可能とした車両です。

車両に医師、看護師、専属の運転手が乗り各消防本部の要請で、豊岡病院救急救命センターから出動します。そして、救急現場若しくは、あらかじめ決められたドッキング場所で消防機関の救急車に乗り移って医師による治療を行いながら病院まで搬送します。

そのことにより、ドクターヘリと同じく医師による治療開始までの時間が半減し、救命率の向上や後遺症の軽減が期待されています。
※ドッキング場所は、幹線道路沿いの道の駅や公園駐車場など安全に駐車できる場所を選定しています。

但馬地域全体で132カ所、そのうち養父市内に28カ所を指定しています。

お問い合わせ先

養父市消防本部

(☎662-0119)

今年4月からドクターヘリに続き、ドクターカーが公立豊岡病院に配備され、12月5日から運用が開始されました。
ドクターカーは、ドクターヘリが悪天候などで運航できない場合出動します。
運用時間は、午前8時半から日没30分前までの時間帯で但馬5市町の範囲をカバーします。
今回、導入されたドクターカー

西野玉龍さん、綿貫墨石さんが 「ともしびの賞」を受賞



綿貫墨石さん(写真:左)と西野玉龍さん(写真:右)

西野玉龍さん(八鹿町九鹿)と綿貫墨石さん(八鹿町京口)が11月16日、県立美術館(神戸市)で「平成22年度ともしびの賞」を受賞しました。

ともしびの賞は長年にわたり、ひたむきな努力を重ね、郷土の文化向上に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県の代表的な文化功労賞です。

受賞された西野さん、綿貫さんともに永年にわたり「書」の創作に取り組み、書道の普及発展に努めるなど、地域文化の向上に尽力されています。

西村長通さんが 「環境大臣表彰」を受賞



西村長通さん(八鹿町青山)は、合併前の旧八鹿町から数えて、24年間の永きにわたり保健衛生推進協議会の会長として、同協議会の発展と各種事業の推進に尽力するとともに、生活環境の改善及び、環境保全のための指導的役割を果たされました。

また、西村さんは、「市民の皆さんの協力をいただいたおかげで今日の受賞となりました。これからも市民の環境保全の活動などに協力していきたいです」と話されました。